

くのでヒツジグサといわれている。

ハスは、水面から1 mくらい高い位置に桃色の大きな花をつけ、6月ごろから咲き始める。この花が散ると花床の部分が大きくなり、半球状の形で上面にシイの実のようなものを10～20個ぐらいつける。ちょうど、ハチの巣にハチの子がいるように見えるところから、ハチス（蜂巢）と呼ぶようになり、それがつまってハスと呼ばれるようになった。

コウホネは、カワホネ（河骨）ともいわれ、地下茎が太くて寒さに強く、よくふえる。6月から10月にかけて、黄色のかわいい花をつける。

## （2）真照寺のミズバショウ

池の上手の湿地に、ミズバショウがたくさん咲き、3月の終わりごろ芽をふき、4月初めには、葉より先にまっ白



ミズバショウ

い花（仏えん苞）が開く。この花（苞葉）が仏像の光背（仏像のうしろについている光をあらわしたものに似ているので、「アミダソウ」



ザゼンソウ

この湿地には、茶色の円形の花、ザゼンソウもみられ、ミズバショウに近